

JST/RISTEX「人と情報のエコシステム」研究開発領域
「人と情報のテクノロジーの共生のための人工知能の哲学2.0の構築」プロジェクト

シンポジウム

「人工知能の哲学2.0の構築に向けて」

日時：
2019年3月23日（土）
13時30分から17時45分

会場：
東京大学駒場キャンパス
21KOMCEE East K211教室

参加登録：不要 **参加費：**無料

1980年代から90年代にかけての第2次人工知能ブーム期には、人工知能の可能性と限界をめぐって、哲学者と人工知能研究者のあいだで活発な議論が交わされていました。そして、哲学者からは、人工知能の原理的な限界を指摘するさまざまな議論が提出されました。コンピュータの飛躍的な性能向上と深層学習をはじめとする技術的進展によって人工知能研究がふたたび大きな進展を見せているいま、かつて指摘された課題はすべて克服されたのでしょうか。あるいは、現在の人工知

能にも原理的な課題は残されているのでしょうか。そして、人工知能の可能性と限界についていまあらためて考えるには、人工知能の哲学にはどのようなアップデートが必要なのでしょうか。このシンポジウムでは、第2次人工知能ブーム期に中心的な役割を果たした方々の講演を出発点として、当時の哲学的論争の成果や教訓を再確認するとともに、いまあらためて人工知能の可能性と限界を考えるためには何が必要かを考えてみたいと思います。

第I部：第2次人工知能ブームを振り返る

黒崎政男（東京女子大学）「人間の知性を逆照射するAI」
柴田正良（金沢大学）「ロボットにも行為者性を」
松原仁（公立はこだて未来大学）「人工知能になぜ哲学が必要だったか」

第II部：これからの人工知能の哲学の可能性

鈴木貴之（東京大学）「人工知能の哲学のアップデートのために」
立花幸司（熊本大学）「人間らしさとしての徳と人工知能」
染谷昌義（高千穂大学）「22世紀のAIの哲学—人間本性論から資源本性論への方向転換」

第III部：総合討論

*本イベントに関するお問い合わせは、鈴木貴之（tkykszk@g.ecc.u-tokyo.ac.jp）までお願いいたします。

RISTEX

Human
Information
Technology
Ecosystem